

□■インドネシア 視察レポート■□

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスの佐藤です。

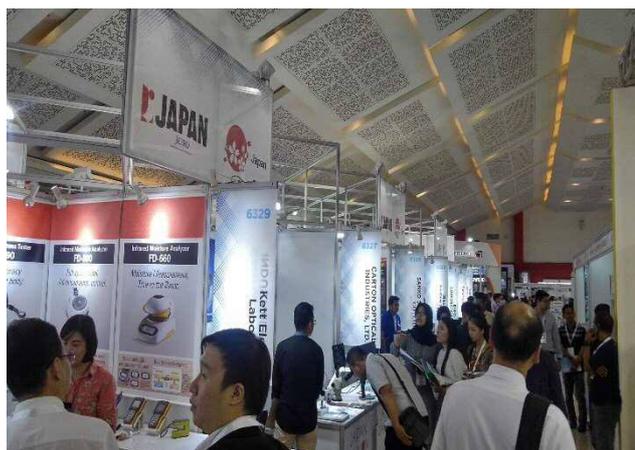
1. 第28回マニュファクチャリング・インドネシア視察

12月は、ジャカルタ国際展示場（J I エキスポ）で開催されたインドネシア最大級の機械分野の展示会「第28回マニュファクチャリング・インドネシア（12月6-9日開催）」を見学して参りました。毎年30カ国を超える地域から2000社を超える企業が、インドネシア市場での販売促進・新規参入を目指して出展します。

日本の中小企業も多数参加しており、ジェトロ（日本貿易振興機構）のジャパン・パビリオンでは工作機械や部品メーカーなど44社が出展、なかには愛知県や和歌山県の支援を受けてジェトロのパビリオンに出展する企業もありました。また、名古屋市、愛媛県、相模原市産業振興財団、新潟県三条市といった地方自治体も、地元の企業を支援する形で独自にブースを開設していました。



会場の様子



ジャパンパビリオンブース

インドネシアは人口2.55億人とアセアンで最も大きな市場です。少子高齢化が進むタイに比べ、人口は安定して増加の傾向にあり、個人消費の伸びも大きく、2000年以降のGDP成長率は前年比+4~6%で堅調に推移しています。経済の成長に伴い、ジャカルタ近郊の人件費も近年大幅に上昇しており、生産設備の自動化や省力化の動きは、今後一層強まるものと考えられています。外資規制が厳しく、輸出向け製造業においてはタイやマレーシアに遅れを取っているインドネシアですが、その点で近隣国に比べればまだ競合も少ないため、内需型産業を中心に、海外展開を目指す日系企業からの注目度も高い国と言えます。



ジャカルタの風景

今後の経済成長の成否を左右するインフラ整備においても、現在、MRT（都市高速交通）、LRT（モノレール）、BRT（バス専用レーン）、高速道路、高速鉄道の建設がジャカルタ周辺の主要都市で急ピッチで進められており、今回の視察でジャカルタ東部のブカシ県へ向かう途中にも、大規模な工事をいたるところで目にし、発展の勢いを感じました。日系企業や韓国系企業の工場の進出が多いブカシ県のチカランエリアでは、首都圏の人口過密やそれに伴う渋滞、住居の不足といった問題への解決策として、インドネシアの大手財閥リッポグループによる壮大な都市開発も進められています。既にジャカルタから転居する人も増えているようで、今後は大型の商業施設や学校、ホテルなどが次々と建設され、20年計画で一大都市「メイカルタ」が築かれる構想です。製造工場が数多く存在するチカランエリアで、自動車や電子部品などの製造業がより一層活況となることが期待されます。



2. 島根ビジネスサポート・オフィス インドネシア拠点担当ヒアリング

島根ビジネスサポート・オフィス インドネシア拠点 (PT. APM Japan Consulting) 担当高倉 (取締役・日本国公認会計士) にインドネシアの現状を伺いましたので、ご報告いたします。

<企業進出、ビジネスの状況>

- ・企業の進出は製造業からサービス業にシフトしている。冷凍倉庫や浄化槽などを使ってのビジネスも出てきている（バリ島など）。WEB 広告や、ショッピングモールなどでのクラウド型デジタルサイネージ（WEB 入稿）も盛んになってきた。
- ・ネガティブリスト（投資規制）は、以前に比べ緩くなっており（レストラン：外資 51%⇒100%、商社 33%⇒66%、教育 49%⇒66%）、投資しやすくなっている。ただし、サービス業や商社は 100 億ルピア（日本円で 8000 万円～1 億円）の拠出が必要で、ハードルは高い。
- ・産業の 8 割はジャワ島に集積しており、製造業は自動車関連が主。自動車販売台数の伸びはあまりない（ピークは 2013 年の 123 万台で、回復しつつはあるが、現在はその 9 割弱）。
- ・2012 年が企業進出の一つのピークであったが、ちょうど 5 年たち、利益が出ない企業などで事業再編や撤退も見られる。撤退は半年から 1 年程度時間がかかる。会社を売ることもできるが、ライセンス譲渡など、費用がかかる場合もある。

<政府関連・インフラ整備>

- ・開発関連で不動産は活況であるが、メインは国営企業が握る。エネルギー、インフラ系も同様に国営企業が強い。民間にも仕事は多少回ってはくるようであるが・・・。
- ・駐在の人はジャカルタ周辺の工業地帯へは車で通うが、交通渋滞がひどく、毎日 3 時間かけて通勤している。MRT が建設中だが、2019 年のアジア大会に間に合うか不明。

<人件費>

- ・人件費は、ブカシがジャカルタよりも高い（ジャカルタで最賃 3,300 千ルピア、ブカシ 3,500 千ルピア）。そのほかの州でも、ジャカルタ並から 50%程度の水準まで、年 8~9%の率で上昇中。

インドネシアでの市場調査のご依頼や投資環境に関するご質問がある際は、サポートオフィスまでお気軽に御連絡ください。

□■タイの釣具市場調査■□

タイの釣具市場について、以前より調査のご依頼をいただいていた島根県内企業の方に、12月に開催された釣具の展示会に合わせてご訪泰いただきました。

バンコク市内では、年に二回(3月と12月)、釣具の展示会が開催されています。タイ釣具販売者協会(TFTMA)のノーマップ会長のお話によると、タイの釣り人口は全体の約5%にもものぼるとのこと。タイ人だけでなく、タイ在住日本人の間でも、バンコク近郊にある養殖場や釣り堀で、バラマンディやジャイアントスネークヘッド、ピラクルといった巨大な淡水魚を釣ったり、バンコクから車で二時間程の場所にあるパタヤビーチやシーラチャの町から船をチャーターし、アジやイカなどの海釣りに出かけるのが人気です。

今回見学した釣具の展示会「Fishing Expo 2017」では、一般消費者への即売を目的とした小売店が数多く出展しており、休日だったこともあって老若男女問わず沢山の釣り好きで賑わっていました。



釣具の展示会「Fishing Expo」

今回訪泰された企業の方は、本格的な沖釣りを趣味とする層をターゲットに、特殊な釣具を制作されており、展示会場では目的のアイテムを見つけることはできませんでしたが、タイで釣りを趣味として楽しむ人の層が厚いことや、日本とタイでの製品の違いなど、タイの釣り市場を知る上で一見の価値はあったとおっしゃっていました。

展示会を見学した翌日には、事前にいただいた情報を元にリストアップした釣具の販売代理店の中から、バンコク市内にある4軒を回り、各店のオーナーの方から、人気の釣り場や船を出す時期、タイ国内での釣具の需要や生産元についてなど、色々と情報を得ることができました。日本で販売されている製品と比べても遜色のない釣具が店頭で低価格で販売されていたことから、今後はタイでの委託生産も視野に入れ、更に調査を進めることになりそうです。

現地の様子を実際に見ていただくことで、視察前よりもタイの市場をより身近に感じていただけるかと思えます。サポートオフィスでは視察先のリストアップや訪問先とのアポイント取得、当日のアテンドも行なっております。皆様の海外進出の足がかりを作れるようなお手伝いをさせていただければ幸いです。

☆☆タイから便り☆☆

～「タイ・バンコクのクリスマス」～

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのタイ人スタッフ、ビューです。
今回は、タイ・バンコクのクリスマスについてご紹介したいと思います。タイ人のクリスマスの過ごし方について、皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか？
タイの国民は 90%以上が仏教を信仰しており、イスラム教、キリスト教、ヒンドゥー教などを信仰する人たちは少数派です。仏教国なので、欧米のように靴下を吊るしてサンタ・クロースからのプレゼントを待ったり、クリスマスツリーや暖炉など、家の中を盛大に飾りつけし、家族そろってお祝いするような習慣はありません。しかし、楽しいことやお祭り事が大好きなタイ人は、仏教徒であってもバレンタインデーやハロウィン、クリスマスといった面白そうなイベントは見逃せません。
タイ人の敬虔なキリスト教徒は、家の近くにある教会に集まり、讃美歌や聖歌を歌い、キリスト降誕の舞台を演じたり、プレゼントを配布したりする活動を行います。また、キリスト教徒の家の戸口や、公共の場所で聖歌を歌う「キャロリング」を行う人もいます。



キリスト教会に集まる人たち



子供たちによるキリスト降誕の演劇



教会で讃美歌や聖歌が歌われる様子



BTS(スカイトレイン)駅で行なわれるキャロリング

一方で、一般的な仏教徒のタイ人は、街中のイルミネーションやクリスマスツリーなどクリスマスデコレーションがあるところへでかけ、写真撮影をしたり、友人や恋人とレストランで食事をし、ワイワイ楽しんだりします。学校や会社でプレゼント交換をするところもあります。もし、タイでクリスマスの雰囲気をも分に味わいたいときは、タイ国内最大級のデパートであるセントラル・ワールド・プラザ前の広場がお勧めです。毎年、趣向を凝らしたイルミネーションで大きなクリスマスツリーが豪華に装飾され、タイ人に大人気の撮影スポットとなります。



バンコク市内のクリスマスデコレーション

担当；佐藤 揺 Tayuta Sato

Address :1 Glas Haus Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25,
Sukhumvit Rd.,Klongtoey-Nua,Wattana,Bangkok 10110

Tel :+66-(0)-2-261-10588

Mobile :+66-(0)-89-200-7763

Mail : shimane-bizsup@aapth.com

お気軽にご連絡ください。

当拠点の運営法人（島根県より業務委託）

■アジア・アライアンス・パートナー・ジャパン株式会社 <http://www.aapjp.com/index.html>

タイを中心に、ベトナム・インドネシア・インドにて主に日系中堅・中小企業様のアセアン進出や進出後の会計税務法務を中心とした運営支援業務を行っております。

▶ タイ経済指標

項目	単位	2014	2015	2016	2017
GDP 成長率	前年比ベ(%)	0.9	2.8	3.2	3.8(1~9月)
人口*	千人	67,065	67,293	67,506	67,671(10月)
労働者の数*	千人	38,963	39,165	37,792	38,281(11月)
失業率**	%	0.84	0.89	0.99	1.20(11月)
最低賃金*	バンコク	300	300	300	310(12月)
	チョンブリー	300	300	300	308(12月)
	アユタヤー	300	300	300	308(12月)
	ラヨーン	300	300	300	308(12月)
賃金:全国製造業の平均	バーツ	12,074	12,305	12,402	12,469(11月)
インフレ率**	前年比ベ(%)	1.90	▲0.90	0.19	0.66(11月)
中央銀行政策金利*	%	2.00	1.50	1.50	1.50(12月)
普通貯金率**	%	0.59	0.56	0.47	0.47(12月)
ローン金利(MLR) **	%	6.96	6.75	6.47	6.36(11月)
SET 指数*	1975年:100	1,497.7	1,288.0	1,542.9	1,753.71(12月)
バーツ/100円**	バーツ	30.77	28.31	32.53	30.27(12月)
バーツ/米ドル**	バーツ	32.48	34.25	35.30	33.9(12月)
円/米ドル**	円	105.84	121.0	108.8	112.2(12月)
車販売台数(1月からの累計)	台数	884,346	795,905	765,593	789,166(11月)
BOI 認可プロジェクト	件数	1,662	2,237	1,688	911(1~9月)
BOI 認可プロジェクト金額	10億バーツ	729.4	809.4	861.3	565.7(1~9月)

*期末、**平均